

13. さて、イエスは山に登り、ご自身のお望みになる者たちを呼び寄せられたので、彼らはみもとに来た。
14. そこでイエスは十二弟子を任命された。それは、
15. 彼らを身近に置き、また彼らを遣わして福音を宣べさせ、悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。

## 説教

カペナウムの会堂で人々を教え、悪霊を追い出し、病人を癒やし、汚れをきよめ、中風の人を赦し、安息日の回復をなさったイエスさまに多くの人がついて来ます。イエスさまは、これまで権威ある教えを宣べ伝えてこられました。その権威ある教えは、単に人々の頭を納得させるのみならず、悪霊を従え、人の罪を赦し、病を制し、安息日の主として安息日にまで君臨するという前代未聞のものでした。カペナウムの会堂で悪霊を叱りつけて追い出した時、人々は「権威ある新しい教えだ」と驚きましたが、その権威は悪霊を追い出すにとどまりませんでした。イエスさまの「行っておられることを聞いて」、ガリラヤ、ユダヤ、エルサレム、さらにはヨルダンの川向こうやツロ、シドンからも、「大ぜいの人々」が「みもとにやって来」ます (3:7-8)。

こうして、ガリラヤでひと通り宣教なさったイエスさまは、湖から山に登ります。そして、イエスさまについて来る人々の中から弟子をお選びになるのです。「さて、イエスは山に登り、ご自身のお望みになる者たちを呼び寄せられたので、彼らはみもとに来た。」(13) ここに、イエスさまが弟子をお選びになる際の基準が記されます。それはイエスさまが「お望みになる者たち」です。イエスさまは「ご自身のお望みになる者たち」を「呼び寄せられた」のであり、これが唯一の基準でした。イエスさまは有能な者を選ぶわけではありません。宣教の助けになりそうな能力ある者を選ぶわけではありません。品行方正で性格の良い「いい人」を弟子に選ぶのでもありません。あるいは、これまでイエスさまの伝道に貢献した功労者を弟子に選ぶのでもありません。信仰篤い人物を弟子に選ぶのでもありません。「ご自身のお望みになる者」をイエスさまは「呼び寄せられた」のです。これから大々的に伝道を展開し、後にはキリスト教会を指導していく者となるのですから、しっかりと人物を選ばなければなりません。人格や能力や信仰ある人物でなければと思います。でも、そういう中で、イエスさまはあくまで「ご自身のお望みになる者たち」を「呼び寄せ」ました。イエスさまが弟子にお選びになる唯一の基準は、ただ「ご自身のお望みになる者」なのです。そして、このイエスさまの御意思、すなわち「みこころ」こそは、神の国の支配原理でした。すべてはイエスさまのみこころによります。イエスさまのみこころがすべてを決定します。イエスさまのみこころが最善、最高なのです。イエスさまのみこころ抜き、良い人格とか優れた能力とか篤い信仰などといったものはあり得ません。イエスさまのみこころの実現、これが神の国でありキリストのからだなる教会なのです。

「そこでイエスは十二弟子を任命された。」(14節前半)「十二弟子」の直訳は「十二」で、それでは不充分ということか「彼らを使徒と名付けられた」という文を補足した写本もあります。「任命する」という言葉は、通常「行う、造る」と訳されます。補足も加えると次のように訳すことが可能です。「イエスは十二人を創造し、彼らを使徒と名付けられた。」三名の弟子には本名とは別の名を与えるなど、「十二使徒」の任命は主の新たな「創造」のわざと言うことができます。彼ら十二人は、これまでイエスさまにゾロゾロついて来た「烏合の衆」の延長として、これからもイエスさまについて行くわけではありません。イエスさまが彼らをご自身の弟子とし「使徒」として任命なさるのは、これまでとは全く異なる、イエスさまの弟子としての生まれ変わりです。それはいわば「使徒」としての「再創造」なのです。「使徒」とは「任務と職権を帯びて派遣されていく使者、大使、特使」のことです。

つまり、イエスさまになり代わり、イエスさまの代理となって、イエスさまの任務と職権を帯びて派遣されていく、「イエスさまの大使、特使」、それが「使徒」です。

イエスさまが十二人を「使徒」に選んだ理由がこう解説されます。「それは、彼らを身近に置き、また彼らを遣わして福音を宣べさせ、悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。」(14-15) 直訳はこうです。「彼と共にいるため、そして、福音を宣べ、悪霊を追い出す権威を持たせるべく、彼らを遣わすためである。」二つの理由が明らかにされます。一つは、十二人がイエスさまと「共にいるため」です。そして、もう一つは、十二人を「遣わすため」です。イエスさまと「共にい」て、「派遣される」という、この両者はいずれも重要です。十二人は、イエスさまの「使徒」として、イエスさまになり代わってイエスさまの働きをしなければなりません。ですから、何よりイエスさまを知らなければなりません。イエスさまを知らずにイエスさまの働きはできません。それで、イエスさまと寝食を共にして、イエスさまと一緒に生活します。イエスさまの公生涯はあまりにも短いものでした。その間に、イエスさまの教え、行い、正しさ、憐れみをできる限り学ばなければなりません。これはイエスさまの働きをすることと同じくらい大切なことです。キリスト教会は神を真剣に求める者たちによって改革されてきました。彼らは喧騒を逃れて、荒野でイエスさまから学んで、学んだイエスさまのみこころを忠実に行おうとしました。

イエスさまと共に生活しながら、同時に彼らが世に遣わされてなすべき働きとして、二つのことが解説されています。一つは「福音を宣べる」ことです。そして、もう一つは「悪霊を追い出す」ことです。これらはイエスさまと共に生活しながら、使徒たちがイエスさまから学ぶべきことの要約と言えます。さらには、彼らがこの世でなすべき働きの要約と言うこともできます。

福音を「宣べる」とは、単純には「声に出して宣言する、公布する、演説する」の意味です。ここでは、イエスさまの宣教の中心である「時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。」(1:14-15) と、イエスさまの具体的なみわざを意味すると思われます。イエスさまの復活後には、より明確にイエスさまの十字架と復活の福音が中心となります。福音が宣教されると、そこに神の国が始まります。神の支配が始まるのです。

宣教と並んで挙げられている弟子たちのもう一つの働きは、「悪霊を追い出す」ことです。「悪霊」は神に敵対する悪の親玉サタンの手下に当たります。悪霊はカペナウムの会堂を支配し、ガリラヤの多くの人々に取り憑いて彼らを苦しめます。ゲラサの墓場に住む悪霊憑きは、一師団にも相当するほどの悪霊に取り憑かれて自分を傷つけていました。サタンと悪霊は、神と人との関わりを破壊し、人と人との関わりを破壊し、人間を破壊し、神が造られた世界を破壊します。悪魔が我が物顔に支配しているこの世界に、イエスさまは乗り込みました。そして、神の子であり神ご自身であるイエスさまが世に来たのです。その時、悪霊界はパニックとなり、悪霊たちはまだ永遠の滅びに投げ入れないでくれと命乞いをします。こうして、悪霊ならぬ神の支配が始まります。これが「悪霊を追い出す」ことです。それは、悪魔の支配が終わりを告げ、神の支配が始まることで、世界が回復していくことを意味します。その回復のしるしが、例えば「悪霊が追い出される」ことであり、悪霊に取り憑かれて自分と他人を傷つけていた人が「正気になる」ことでした。

この「悪霊を追い出す」というイエスさまのみわざは、単に福音宣教に伴う社会的責任とか福祉サービスではありません。ましてや伝道の撒き餌でもありません。これは福音宣教そのものと言えるほど福音宣教と一体化しています。「黙れ、この人から出て行け」とのイエスさまのことばによって、悪霊は出て行きました。イエスさまがみことばを発するとその通りになります。悪霊は逃げ、人の罪は赦され、病は治り、嵐は静まり、二匹の魚と五つのパンで五千人が満腹します。これは神の国の到来と実現を表しています。悪魔が破壊したこの世界の回復です。神

が世に来たらこうなる、という世界の回復した姿です。これは救い主イエスさまによる世界の再創造なのです。イエスさまが向かう所、悪霊は逃げ、病人は癒やされ、死人は生き返り、人々は満腹しました。これらは罪に呪われたこの世界が神によって新たに再創造された姿です。なぜなら、来たるべき新天新地、天国には、悪霊も病も死も飢えも欠乏も滅びも無いからです。戦争も靖国問題もありません。罪も呪いもありません。あるのはただ義と祝福と平安と喜びであり、それら一切をもたらす神の栄光だけが満ち満ちて光り輝いています。これが天国、新天新地です。そして、イエスさまによる病人の癒やしや悪霊の追い出しは、世界を再創造する神の栄光をあらわすものです。勿論、病を癒やされ、たとえ死から生き返っても、時が来たら彼らも死にました。神の国が到来するには到来したのだけれども、未だ完成していないからです。でも、完成していないからといって、イエスさまの癒やしやみわざが空しいものでは断じてありません。なぜなら、間違いなく確実に神の国の支配が始まっているからです。罪の赦しと、呪われた世界の回復とが始まります。そして、そのしるしとしての神の栄光が現れるのです。

「悪霊を追い出す権威を持たせるため」とあります。イエスさまはキリストのからだなる教会に「悪霊を追い出す権威を持たせる」のです。つまり、人々に福音を伝えると同時に、その福音の通りに、罪に呪われたこの世界が新たに再創造されて回復していく姿を実現する使命が使徒たちに与えられています。使命というよりは、それを実現する力、実行力、「権威」が、キリスト教会に委ねられているのです。こうして、使徒たちは、キリストと共にあってキリストから学び、キリストの福音を宣べ伝え、罪に呪われたこの世界を新たに造り変え回復させるキリストの栄光をあらわして行ったのでした。